

いよいよ本格的な夏が始まります。子ども達は、水遊びやプールをとても楽しみにしています。この時期は、夏風邪と言われる感染症が流行しやすくなります。夏風邪を起こすウイルスは、高温多湿を好むタイプのウイルスです。感染症の流行する前に予防対策として①手洗い徹底 ②排泄物の適切な処理 ③タオルの共用を避ける ④免疫力を高めるために十分な睡眠とバランスのとれた食事 ⑤発熱や発疹、下痢や嘔吐などの症状がある場合は、水分補給をこまめにし無理をさせず早めに受診をしましょう。

夏の流行しやすい病気

1 咽頭結膜熱(プール熱)

アデノウイルスによって引き起こされる感染症です。

症状は、発熱、咽頭炎(喉の痛みや腫れ)、結膜炎(目の充血や目やに) 首のリンパ腺が腫れることがあります。プールでの感染が多いことから「プール熱」とも呼ばれます。まれに合併症として熱に伴う熱性けいれん、肺炎、髄膜炎、脳炎、心筋炎などが生じることがあります。

2 ペルバンギーナ

エンテロウイルスやコクサッキーウイルスによって引き起こされる感染症です。症状は、発熱、喉や口の中に水疱ができて痛むことがある。まれに合併症として熱に伴う熱性けいれん、髄膜炎や心筋炎などが生じることがあります。

3 手足口病

エンテロウイルスやコクサッキーウイルスによって引き起こされる感染症です。感染してから3～5日後に口の中、手のひら、足の裏や足の甲に発疹が現れることが多いです。肘や膝、お尻にもできることがあります。通常は、軽症で済みますが、まれに合併症として熱に伴う熱性けいれん、髄膜炎心筋炎などが生じることがあります。

* 上記の1～3までの病気で口の中に発疹や水疱ができると痛みで食事が出来なくなることがあります。発熱がなく普段どおりに食事がとれるまでゆっくりと静養しましょう。

4 伝染性紅斑(りんご病)

ヒトパルボウイルスによって引き起こされる感染症です。症状として風邪症状が出ることがありますが、症状が出ない時があります。感染から数日後両頬に赤い発疹や発赤が出ます。発疹が出る頃には感染力が弱まっています。まれに合併症として関節炎や貧血などが生じることがあります。また、妊娠中の人は、感染すると胎児に影響を及ぼしたり、流産の恐れがあるため注意が必要です。

5 流行性角結膜炎(はやり目)

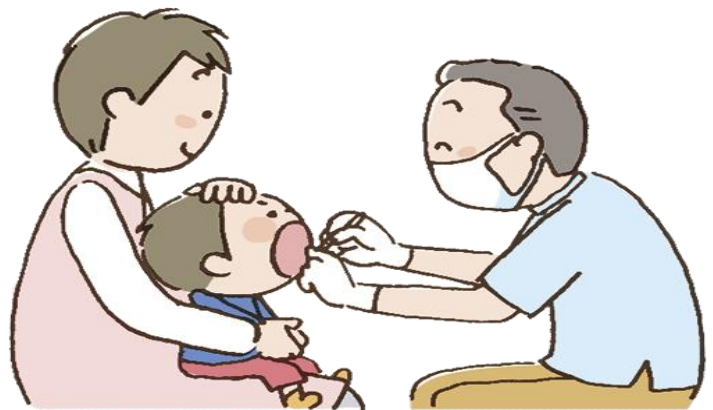
アデノウイルスによって引き起こされる感染症です。症状は、目の充血や目やになどあります。

とびひ(伝染性膿痂疹)

「とびひ」は、虫刺され、あせも、湿疹などで傷ついた皮膚を汚れた爪でひっかくと傷口から黄色ブドウ球菌や溶血性レンサ球菌といった細菌などが感染してなります。特にアトピー性皮膚炎があると皮膚のバリア機能が低下してとびひになりやすい状態にあります。傷口から浸出液がでていたら、患部をガーゼで覆い直接手を触れないようにしましょう。また、とびひの範囲が増えたり、アトピー性皮膚炎で治りにくい場合、悪化させないように必ず受診し治療をしましょう。毎朝、全身状態(皮膚の状態も含む)を観察して登園しましょう。

当園における感染者数

- ① 感染性胃腸炎(胃腸炎含む)・・・3名
- ② りんご病・・・1名
- ③ 突発性発疹・・・2名
- ④ 手足口病・・・1名



すべての検診が終わりました。

検診結果は、その都度お知らせしていますが、再受診や尿検査の結果がまだのお子様は、速やかに受診し、結果をご提出ください。